

2学期終業式を実施しました

積雪のおそれがあり、子どもたちの登校を心配していましたが、思ったほどの雪が降らず無事に2学期最終日を迎えることができました。小雪が舞い、強い風が吹きつける中に登校してきた子どもたちには、労いの言葉を掛けたところです。しかしながら、子どもたちはやはり元気です。この天候の中でも、登校後に多くの子どもたちが運動場に出て遊んでいました。見ていて嬉しくなりました。



終業式は、リモートで実施しました。

私からは、下のスライドを提示しながら2つの柱と、1つの余談を話しました。

今日のお話

まどまり1 2学期に力を入れてほしいこと
のふりかえり

まどまり2 日本文化とお正月

考えよう、語り合おう

それぞれ、5点まん点で何点かな？

うなずきながら話を聞く

「手をあげる」とは、
気づきや考え、感想をもったという【合図】
(発表した人も、したくない人も出す)

<気づき>
<主張>
<比べる>

まどまり1 2学期に力を入れてほしいことのふりかえり

考えよう、語り合おう

合計ポイント	コメント
15	言うことなし。これからも、友達の良い手本となれ!
11 ~ 14	語り合いを進めてくれる存在。目指せ15ポイント!
7 ~ 10	まずまず。ポイントアップで語り合いを高める力になれ!
0 ~ 6	これからが楽しみ。大きなポイントアップを期待す!

柱の1つ目は、2学期の振り返りとして、始業式や全校集会で伝えてきたことについて、どれだけ意識し実践しているかを自己評価してもらいました。リモートで反応や表情が分かりづらかったのですが、学習の構えとして大切なことなので、今後も折に触れて伝え続けようと考えています。

余談として、通知表「はちろう」の所見を読んで、子どもたちの成長を感じられた語句を紹介しました。その1では「自分自身のための成長」を、その2では「相手に向けた言動の成長」を取り上げました。

話は ちょっと それですが、うれしかったこと その1

自分の考えを選んで発表する すがたが

自分の課題を見つけて

目標にむかって努力する

相手に伝わるようにくふうして

話す人にへんじや ほんのうをしながら

リーダーとして 学級を引っばり

話は ちょっと それですが、うれしかったこと その2

こまっている 友達を選んで たすけて

友達への 気づきが でき

こまっている 友達を 進んで たすけて

友達のために できることを 考えて動く

友達の よさを 見つけて

だれにでも やさしく、公平に

まどまり2 日本文化とお正月

これは、なんでしょう？

門松(かどまつ)

なぜ、かざるの？

なぜ、門松なのに 竹がめだっているの？

なぜ、竹をななめにきっているの？

松のほかに、どんな ざいりょうを つかうの？

まどまり2 日本文化とお正月

日本の お正月ならではの文化

あじわう

関心を もつ

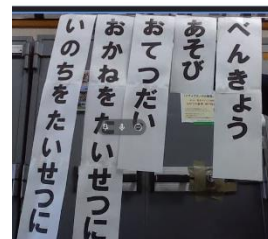
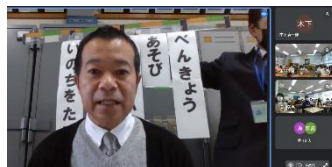
しらべてみる

2つ目には、日本文化の一つとして「お正月」を意識してほしいとの思いで話をしました。新しい年を「お正月様」と「様」をつけて呼び、迎えるにあたって数々の支度を整えるなど、新年に対して畏敬の念を抱く日本文化に興味や関心をもってくれる

ことを願っての話でした。

児童代表の言葉では、5名の子どもたちが登場しました。1年生は今回も3人が息を合わせて、リズムよく楽しく発表しました。1組池●●●●●さんは算数をがんばったことを、2組大●●●●●さんは縄跳びが上達したことを、3組染●●●●●さんは漢字を丁寧にたくさん練習したことを話してくれました。3人の3学期の目標も分かりました。4年1組小●●●●●さんは、小音会と八郎岳登山で味わった思いを場面の様子を交えて発表できました。高学年に近づく3学期に向けた目標もしっかりと立てていました。2組の江●●●●●さんも、八郎岳登山、長崎市の歴史学習、小音会、自主学習について経験の意義を述べました。目標も2つ明確に立てていました。内容も態度も素晴らしい5人の発表は、しめくりりにふさわしいものでした。

式終了後に、生活指導主任の●●教諭から冬休みの生活で気を付けることについての話がありました。画像のとおり5点に絞って話していますので、ぜひご家庭で話題にしてその徹底をお願いします。



通知表は昨日わたしていたため、その後の学級活動ではゆっくりと2学期の振り返りや冬休みの生活について確認ができたようです。

大掃除は45分とって、普段はできないところを念入りに行っていました。(画像は2年生の様子です。全員がとても一生懸命取り組んでいました。)



「コーチング」をご存じですか 最終 長崎県教育センター公開講座佐藤敬子氏の講演資料より引用

最終回は、コーチングにおける効果的な伝え方についてお伝えします。

伝えたいことを伝えるためには、ここまでも書いてきたように「日頃より相手を承認している」ことが前提です。また、これも前回までと重複する部分がありますが、「相手が自ら考えて、行動につなげる」伝え方を心がけることです。期待していることも同時に伝えるとより効果が上がります。

自分を認めてくれている人からの言葉は「ありがたい指導」として、そうでない人からの言葉は「叱られた」と受け止められます。相手にとってよりよいコーチングのために、日常からの関わりや、相手への心配りを大切だと言えそうです。

最後になりましたが、学習も行事も盛り沢山だった今学期を無事に終えることができたのは、何事も前向きに取り組む子どもたちと、学校教育活動に対してご理解ご協力いただいた保護者の皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。

来学期も引き続きよろしくお願いいたします。

よいお年をお迎えください。



(子どもたちに提示したスライドの最終ページ)

